白根市政だより

新潟県白根市
発行所　白根市役所
発行人　吉沢正五
編集　企画審議室

人口動態

総世帯	6,089		
人口	35,532		
男	16,856		
女	18,676		
（5月中）			
出生	36	転出	121
死亡	26	婚姻	82
転入	99	離婚	4

水魔はそこまできている

大水とわたくしたちの心がまえ

日頃から万全の対策を

昨年一月には七十年来といわれた豪雪に見舞われ、梅雨に入ってからは数回の水魔におそわれました。特に八月五日県下に大被害を与えた集中豪雨は、土俵のかわりに米俵をつかって白根市を救い、全国に話題をまいた政府米問題を生むことにもなりました。

さらに九月十六日には最大風速五十米以上の台風に打ちのめされ、これらの相次ぐ災害によって、約数十億円に及ぶ財産を失ったことは、まだわたくしたちの記憶にはっきりときざまれています。

今年も雪害こそはなかったのですが、洪水と台風のシーズンをむかえ、すぐそこまで災害がきているのです。「なあに昨年みたいに大きな災害はそうたびたびおきるものではない。」などとたかをくくっていると、その油断やすきからとんだ大事になりかねないのです。

人の力だけでは天災を完全に防ぎきることはできないところですが、出来る限り、恐しい天災から人命を守り、また貴重な財産の損害を少なくするために、市としても防災対策とその組織を作っていますが、わたくしたち一人一人が日頃からの災害に対する心がまえを固めておき、災害予防のため何をしたらよいか、災害がおきた時には何をしたらよいかを、あらかじめ決めておいて実行することが一番大切なことといわれております。

大水とわたくしたちの心がまえ、市の防災対策と防災組織、いつ水危険箇所、これからの大雨予報などをおしらせして、大水には万全の対策をたてていただくために「水魔はそこまで来ている」を特集してみました。

水防資材の準備は完了

——応援態勢を確立しよう——

市では水害シーズンに備えて、水防資材、工具の準備をおわり、去る十六日には自衛隊新発田駐とん隊から指導者を迎え、庄瀬地区菱潟地先信濃川原で、消防団員二五〇名に対して水防訓練を行うなど災害をなんとかして、最少限度に食い止めようと懸命な防災対策をたてています。

市の災害対策本部は、吉沢市長を本部長、谷川助役、今井消防団長を副本部長に、総務、建設、保健衛生、産業各課長、福祉所長を災害防止対策、現場作業の要請指導、被害地の調査救護、防災資材の確保のそれぞれの部門を担当させ、各消防分団から災害防止、現場作業に出動してもらう体制になっています。

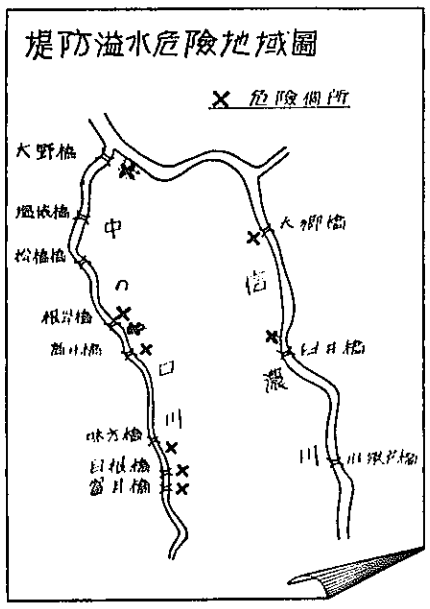
しかし、いかに組織が整備され、対策が計画されても、みなさんの一致協力した応援態勢がなければ災害を防ぐことは困難になります。誰れかが防いでくれるだろうという考えを捨て、「みんなの力で災害からわたくしたちの生命と財産を守るんだ。」という心がまえをもって、ことにあたりたいものです。

堤防危険九ケ所

——非常時の連報経路確認が大切——

昨年のような大雨がくると白根市を囲んでいる、信濃川と中の口川の堤防が破れたり、いつ水する恐れの危険カ所は九ケ所あります。

白根市側の中の口川堤防カサ上げ工事が完了したので昨年のようないつ水騒ぎは考えられないのですが、富月橋と白根橋の橋際附近、七軒地内の堤防四〇米、高井橋附近、山崎樋管から下流三〇〇米、根岸橋附近、上郷排水機場旧水門、大郷橋附近、北部上水道浄水場附近の堤防は、危険ケ所ですから非常時の連絡、通報経路を確認しておくことが大切です。



準備すること　心がけること

日頃から万一の場合の対策を、一人一人で固める必要があります。

第一に災害に対するそなえを固めることです。日頃の補修や手当を怠ったため、家が流されたりします。

第二に水害に直面してもあわてないで行動することです。電気はとまり、交通はと絶し、家財や食糧が流され、日頃、想像もつかない混乱が生ずることがありますが、その時こそ落着いて行動しなければなりません。

◎準備すること、心がけること

1 広報やラジオ、テレビ放送をよく聞き注意事項を守り、大水に対する準備をととのえる。

2 無用の外出は、危険であるばかりでなく、家族に不安を与えるのでつつしむ。

3 家族は最も安全な部屋に集まる。なお避難口は二カ所以上あることが望ましい。

4 水害の場合でも火の用心につとめる。

5 避難は時機をあやまらないようにし、避難するときは（避難勧告が出たときは指示にしたがって）落着いて行動するとともに、家族全体をはあくして、特に老人こどもに事故のないよう注意する。

6 避難するときは、支障のない限り、非常持出袋のほか最少限の食糧（パン類）、飲み水、ロープ、貴重品、トランジスターラジオなどをもって行く。

7 家をあけるときは、火を完全に消したうえ、戸締りをする。

8 デマに迷わされて、あわてて行動したため、事故を起した例があるので、どんな場合にも冷静に判断し、落着いて行動する。

9 被害や、けが人、病人など異常な状態を発見したときは、すぐ市の係員や消防団員に連絡し、指示を受ける。

10 長靴、雨合羽など活動しやすい雨具を用意する。

11 家財などを水にぬらさないように、高いところへ移す。

12 小舟やゴムボートをもっている家庭では、万一の場合使用できるよう手近かなところへ運んでおく。

13 洪水のあとは、伝染病が発生しやすいので、生水は飲まないようにし、衛生に注意する。事前に飲み水を確保しておくようにする。

降水量の判断はこうして

気象関係のニュースで、降水量五〇ミリ㍍とか一〇〇ミリ㍍などといわれても、どんな程度の雨が何時間降り続くとその降水量になるのか、わかりにくいので降る雨の音で降水量を判断する方法を、おしらせしましょう。

◎弱い降り方

家の中でトタン屋根をうつ雨の音がすこしわかる。雨樋からはチョロチョロ流れる。この程度の雨は一時間に大体三ミリ㍍位の降り方です。

◎普通の降り方

屋根をうつ雨の音はかなり大きく連続してきこえる。雨樋から、樋の半分位をみたして流れる。一時間に三〜一五ミリ㍍の降り方です。

◎はげしい降り方

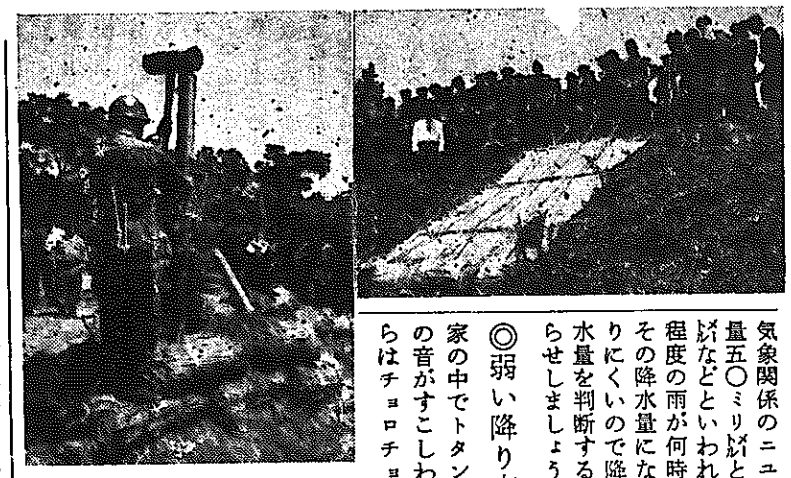
屋根を打つ音は、ドラムカンをころがしたようにひびく、雨樋は一杯になって流れ、時にはあふれる。一時間一五ミリ㍍以上の降り方です。

ですから三〇〇ミリ㍍の降水量と発表されたときは、ドラムカンをころがすように屋根をうつ、はげしい雨が二〇時間も降り続いたということになります。

また三・三平方米（一坪）のところに一ミリ㍍（普通の降り方で一〇〜二〇分）雨が降ると三・三リットル（一・八三升）たまります。排水の悪いところでは、はげしい雨が一時間も続くと、すぐ排水路から雨水があふれることになりますから準備が必要です。

新潟地方気象台では、新潟地方の平野部で五〇ミリ㍍（日量）の雨が降りそうな天気であると注意報、一〇〇ミリ㍍の雨が降ると予想されるときは大雨、洪水警報を発することにしております。

これからは、毎日の天気予報に注意して、被害を最小限にくいとめるようにしましょう。



水防訓練
上右写真（土俵積みの訓練）（むしろ張り防ぎの訓練）

これから三か月の天気

新潟地方気象台6月20日発表

全般の概況

七月上旬は各地でなお**つゆ**が活潑な見込みで、その後一時中休みがありましょう。北陸では多少**つゆ**明けがおくれる傾向があり、一時大雨の恐れもあります。

盛夏期の天候はおおむね順調ですが、一時涼しい期間があらわれましょう。

初秋にも一時低目の期間がありますが、おおむね平年並に、また降水量も大体並に経過しましょう。なお八月後半から九月中にかけ、本土に接近または上陸する台風が二〜三個ありそうです。

七月の天気

中旬はじめ一時**つゆ**の中休みがありますが、明けは平年より二〜三日位おくれる（二十日前後）見込みです。

一時大雨の恐れもあります。気温は上旬に一時低目の期間がありますがその他は平年並で降水量はやや多目また日照は平年並の見込みです。

八月の天気

おおむね夏らしい順調な経過が予想されます。上旬末から中旬はじめにかけ、一時気温の低目の時期があります。

平均では日照、降水量とも大体平年並でしょう。なお本土に接近する台風が一個位予想されます。

九月の天気

中旬頃気温が低目となり、一時天気のぐづつく期間がありますが、その他は並か高目に経過し日照、降水量は平年並でしょう。台風は一〜二個本土に接近し、影響をあたえるものが現われる見込みです。

これからは集中豪雨のシーズン

一般に集中豪雨が降りやすい時期は、①七月から八月にかけて**つゆ**が明けかかるとき、②盛夏が終りかける八月中旬頃、③台風が新潟県の南または東側をとおるとき（海岸線を北上するときは、風だけで雨はふらない）といわれており、これからがそのシーズンに入ります。

白根市民にとって忘れることのできない、昨年八月五日の大洪水は①による集中豪雨のためといえましょう。このときの各地の降雨量を調べてみますと、下表のようになっております。

これらの地方に雨が多く降っているときは、信濃川、中ノ口川は短時間に増水することが一応考えられますので、警戒体制に入らなければなりません。

（36年8月5日午前9時〜6日午前9時までの降雨量）

栃尾	300ミリ	
森町	200ミリ	
長岡	233ミリ	
小千谷	80ミリ	
小出	77ミリ	
守門	180ミリ	
寺泊	304ミリ	